

チリの落葉果実事情(ブドウ、リンゴ)

米国農務省GAINレポート 2024年5月13日

これは米国農務省海外農業局サンチャゴ事務所(チリ)が作成した「落葉果実半期報告書」の要旨及びブドウとリンゴの項(ナシは生産需給統計表のみ)を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要旨

2023/24販売年度(以下「年度」)には、冬の早い時期に平年よりも気温が高く、低温時間の積算がゆっくりと進んだため、大部分の落葉果実の収穫が遅れ、その結果として輸出向けの出荷も遅れた。しかし、出荷シーズンが進めば、出荷量と輸出量は回復すると見られる。当事務所は、2023/24年度のブドウの生産量と輸出量は、栽培面積の減少によりいずれも3.3%減のそれぞれ63万トン及び48万トンと予測する。同じ年度のリンゴの生産量は2022/23年度比1.1%減の86万トン、輸出量は1.3%減の46万3千トンと予測する。ナシの栽培面積は4.8%減少し、出荷量は20万トンと見込まれる。その結果、ナシの輸出量は4.7%減の10万トンと推定する。

<生食用ブドウ>

表1 チリの生食用ブドウの生産需給統計

生食用ブドウ(生鮮) 販売年度の始まり チリ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年10月		2022年10月		2023年10月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	43,104	43,104	43,025	43,025	42,500	39,931
収穫面積(ヘクタール)	43,000	43,000	42,000	42,000	41,500	39,500
商業的生産量(トン)	788,110	788,110	651,500	651,500	740,000	630,000
非商業的生産量(トン)	5,000	5,000	4,800	4,800	4,800	5,000
生産量合計(トン)	793,110	793,110	656,300	656,300	744,800	635,000
輸入量(トン)	800	900	700	700	900	1,000
総供給量(トン)	793,910	794,010	657,000	657,000	745,700	636,000
生鮮国内消費量(トン)	185,710	185,816	160,000	160,679	180,700	156,000
輸出量(トン)	608,200	608,194	497,000	496,321	565,000	480,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	793,910	794,010	657,000	657,000	745,700	636,000

公式データは [PSD Online Advanced Query](#) から検索できる。

出典: 当事務所推計

生産

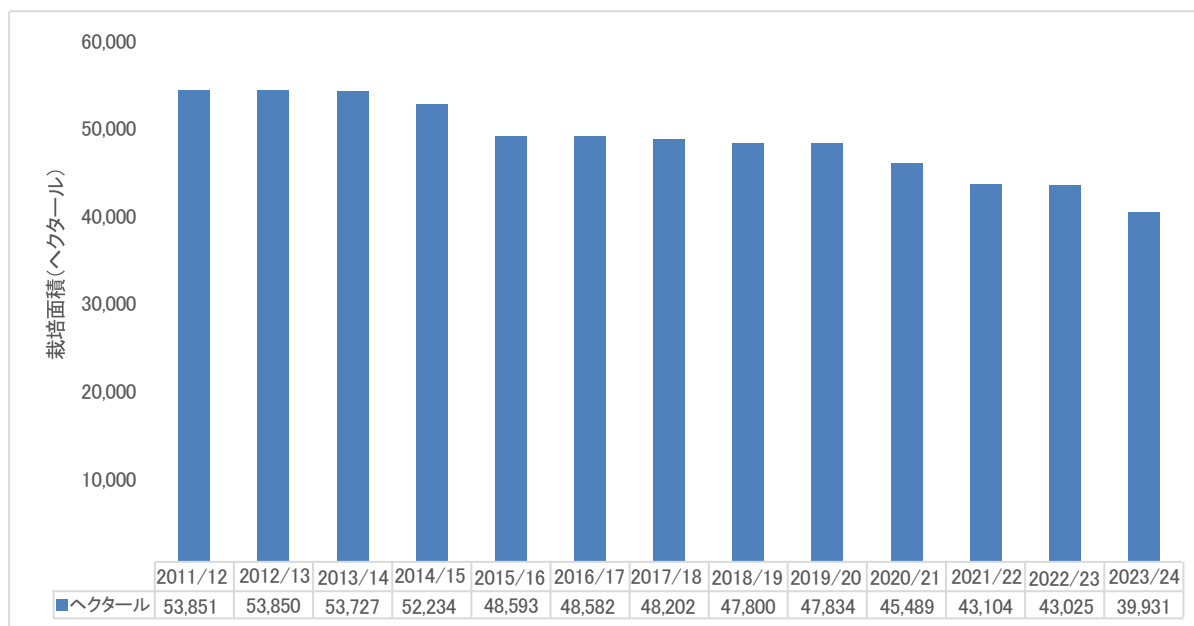
当事務所は、2023/24年度の生食用ブドウの生産量は、栽培面積の減少により3.3%減の63万トンと予測する(表1)。2023/24年度の冬には平年よりも気温が高く、低温時間の積算がゆっくりと進んだため、収穫が遅れ、その結果、輸出向けの出荷が遅れた。しかし、出荷シーズンが進めば、出荷量と輸出量は通常の水準に達すると見られる。

生食用ブドウの栽培面積は、収益性の低さから10年以上にわたって減少している。他の輸出国との競争や、クリムゾン、フレーム、レッドグローブ等の従来からの品種の価格の低迷により、小規模な生食用ブドウの輸出業者らは市場からの撤退を余儀なくされている。栽培面積は、2011/12年度の5万3,851ヘクタールから2023/24年度には3万9,931ヘクタールに減少した(図1)。

チリ農業省研究政策局(ODEPA)のデータによると、チリ全土のすべての生食用ブドウ産地で栽培面積が減少した(表2)。アタカマ州北部地域では、価格の低さと生産コスト(人件費、輸送費、肥料農薬費)の高騰により、栽培面積の減少が特に顕著である。アタカマ州産のブドウは、米国市場でペルー産のブドウと激しい競争に直面しており、価格には下押し圧力がかかっている。全国的に見ると、ブドウ園の更新には生産者によるまとまった投資が必要であるため、新品種への需要は利益率をさらに厳しくしている。

メロポリターナ州(首都州)の生食用ブドウの栽培面積は、過去3年間で22.5%減少した。この地域では、生食用ブドウの栽培面積は、クルミ、サクランボ、柑橘類等のより収益性の高い作物に置き換えられるか、都市の拡大に飲み込まれた。

図1 生食用ブドウの栽培面積(ヘクタール)



出典: ODEPA, 2024

表2 生食用ブドウの州別栽培面積 2023/24 年度 単位: ヘクタール

地域	栽培面積 (ha)	増減率*	シェア
アタカマ州	5,987	-12.4%	15.0%
コキンボ州	7,321	-10.3%	18.3%
バルパライソ州	8,413	-15.6%	21.1%
首都州	5,310	-22.5%	13.3%
オイギンス州	12,736	-5.2%	31.9%
マウレ州	163	-32.3%	0.4%
その他	1		
合計	39,931	-12.2%	100.0%

*増減率は、3年ごとに計測される。上記のデータは入手可能な直近のものである。

出典: 農業省農業研究政策局(ODEPA)の2024年のデータに基づく

政策

チリは、3つの産地(アタカマ州、コキンボ州、バルパライソ州)から米国市場へのアクセスを改善するため、システムアプローチの採用を求めている。システムアプローチは、ヨーロッパブドウ蛾(仮称、ハマキガ科の *Lobesia botrana*)に対する臭化メチル燻蒸の使用を回避することにより、これら3つの地域に利益をもたらす。米国農務省は、2022年10月17日にブドウのシステムアプローチを許可する規則案を公表した。コメント期間は2023年1月17日に終了し、最終規則の公表は現在保留中である。

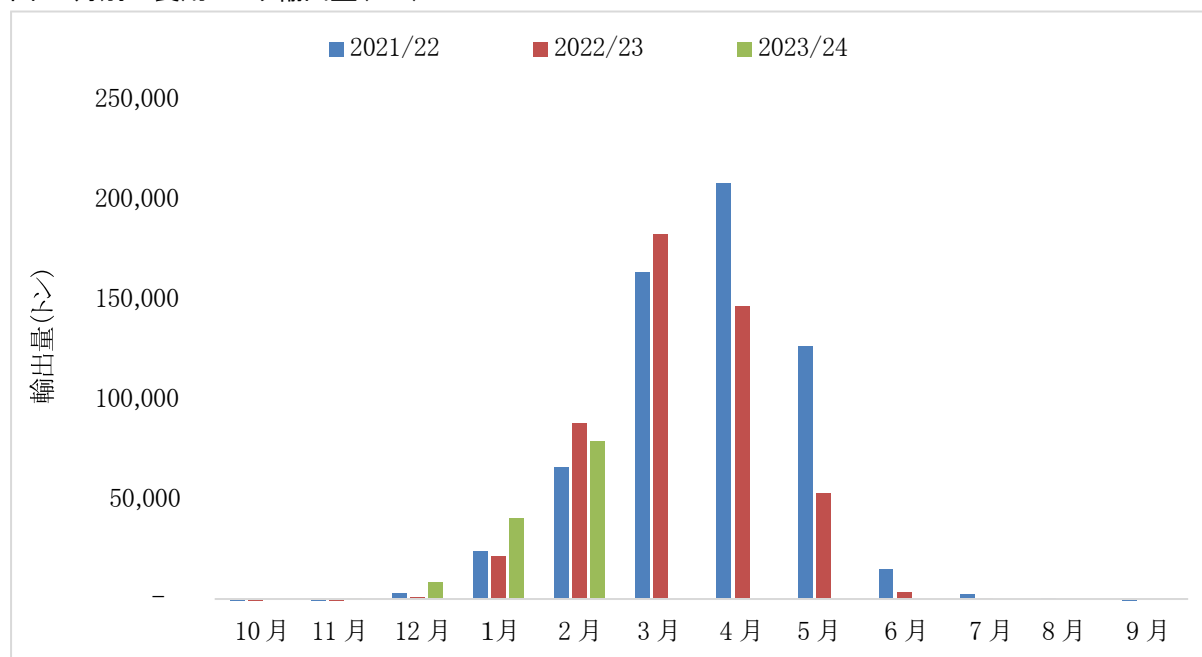
消費

生食用ブドウの生産量の減少を受けて、当事務所は2023/24年度の生食用ブドウの生鮮国内消費量を2.9%減の15万6千トンと推定する。この消費量は商業的生産量の24.8%に相当し、その大部分が硬さやサイズなどの点で輸出向けの品質条件を満たしていない生食用ブドウである。

貿易

当事務所は2023/24年度の輸出量を、生食用ブドウ生産量の減少により3.3%減の合計48万トンと推定する。2023/24年度の3月までの生食用ブドウの輸出量は、生産量の減少と輸出の遅れにより、前年度に比べて12.4%減少した(図2)。

図2 月別生食用ブドウ輸出量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

チリ産生食用ブドウ輸出の主要市場は、米国、中国、オランダ、英国である。2022/23年度の米国向けの生食用ブドウ輸出量は24万9,782トンで、チリの生食用ブドウ輸出の53.2%を占めた(表3)。チリの生食用ブドウ輸出業者らは米国市場で、生食用ブドウの新しい品種の需要の拡大とペルー産生食用ブドウとの競争の激化により課題に直面している。

中国はチリ産生食用ブドウの2番目に大きな市場であり、2022/23年度の輸出量は5万6,928トンで、チリのブドウ輸出量全体の11.5%を占めた。2023/24年度(3月までのデータ)には、生産量の減少と輸出の遅れにより、チリの対中輸出は40.2%減少した。

表3 チリの生食用ブドウ輸出量(トン)

チリから世界への輸出量						
品目: 080610 ブドウ(生鮮)						
輸出先国	販売年度			年度初めから3月まで		
	2021/22	2022/23	変動率	2022年10月 ~2023年3月	2023年10月 ~2024年3月	変動率
世界合計	608,194	496,321	-18.4%	292,905	256,547	-12.4%
米国	310,058	249,782	-19.4%	193,409	184,747	-4.5%
中国	77,627	56,928	-26.7%	23,582	14,109	-40.2%
オランダ	45,196	31,076	-31.2%	8,806	4,883	-44.5%
英国	23,789	21,676	-8.9%	5,848	4,616	-21.1%
韓国	17,952	16,491	-8.1%	11,037	5,076	-54.0%
日本	14,118	13,457	-4.7%	10,730	7,771	-27.6%
スペイン	10,536	12,282	16.6%	4,458	2,744	-38.4%
メキシコ	11,239	11,344	0.9%	6,543	8,340	27.5%
カナダ	9,600	10,089	5.1%	5,001	5,718	14.3%
エクアドル	9,654	8,537	-11.6%	3,014	3,776	25.3%
ロシア	4,274	6,638	55.3%	2,411	1,603	-33.5%
ブラジル	6,551	6,031	-7.9%	2,499	1,619	-35.2%
ドイツ	5,641	4,608	-18.3%	1,482	624	-57.9%
ポルトガル	4,694	3,358	-28.5%	946	777	-17.9%
コロンビア	4,426	3,352	-24.3%	1,224	1,234	0.8%
その他	52,839	40,672	-23.0%	11,915	8,910	-25.2%

出典: Trade Data Monitor, LLC

<リンゴ>

表4 チリのリンゴの生産需給統計

リンゴ(生鮮) 販売年度の始まり チリ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2022年1月		2023年1月		2024年1月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	30,967	30,967	29,035	29,035	28,000	29,006
収穫面積(ヘクタール)	30,000	30,000	28,500	28,500	27,500	28,500
結果樹本数(千本)	33,000	33,000	32,500	32,500	30,000	32,500
未結果樹本数(千本)	2,300	2,300	2,250	2,250	2,000	2,000
果樹本数合計(千本)	35,300	35,300	34,750	34,750	32,000	34,500
商業的生産量(トン)	1,030,000	1,030,000	910,000	870,000	897,000	860,000
非商業的生産量(トン)	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
生産量合計(トン)	1,040,000	1,040,000	920,000	880,000	907,000	870,000
輸入量(トン)	3,600	3,600	3,000	3,000	3,000	3,000
総供給量(トン)	1,043,600	1,043,600	923,000	883,000	910,000	873,000
国内消費量(トン)	441,000	441,000	433,000	413,696	430,000	410,000
輸出量(トン)	602,600	602,600	490,000	469,304	480,000	463,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	1,043,600	1,043,600	923,000	883,000	910,000	873,000

公式データは [PSD Online Advanced Query](#) から検索できる。

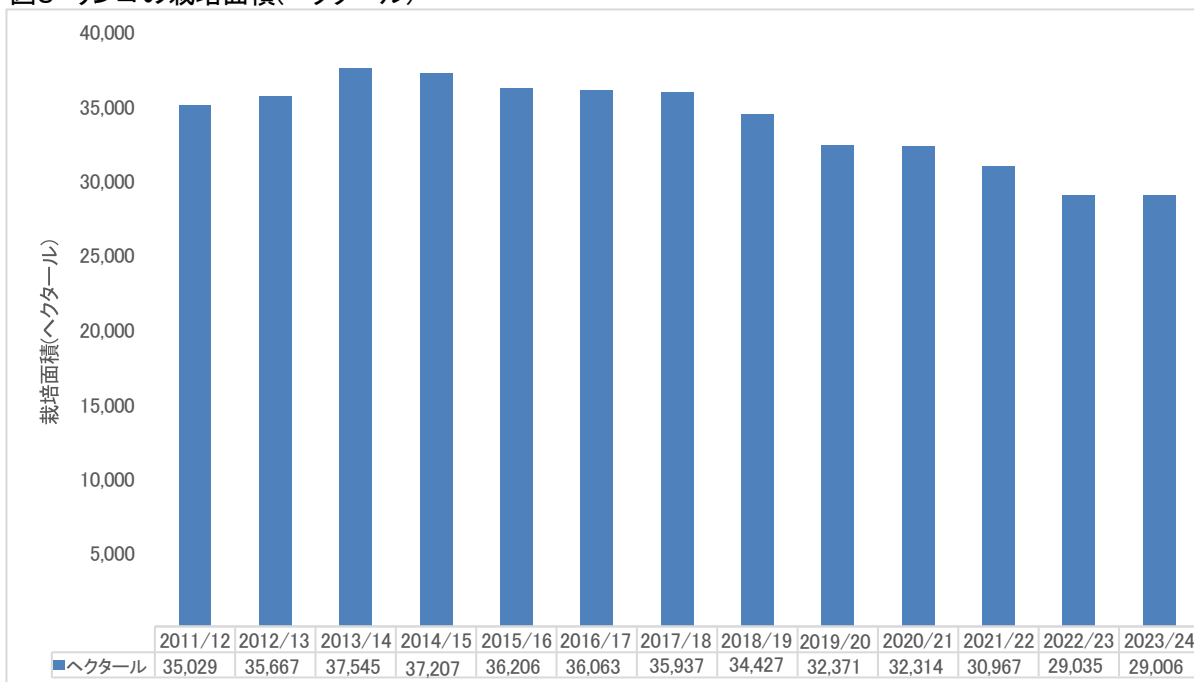
出典: 当事務所推計

生産

当事務所は、2023/24年度のリンゴ生産量を、2022/23年度から1.1%減となる86万トンと推定する(表4)。2023/24年度は、冬の低温積算時間が少なかったため、リンゴの収穫が約15日遅れた。生産量の減少は、平年並みの収量と、過去10年間の減少傾向を踏襲して栽培面積が2万9,006ヘクタールに減少することを前提としている(図3)。

ODEPAの最新データによると、チリのリンゴ産地全体で栽培面積が減少している(表5)。国の中南部のマウレ州とオイギンス州は、それぞれ全国の栽培面積の62.4%及び22.0%、合わせて84.4%を占めている。しかし、新しい品種やサクランボ、クルミ等の他の作物と比較して収益性が低い古い品種の果樹園を持つ生産者が多いため、両州とも栽培面積が減少している。

図3 リンゴの栽培面積(ヘクタール)



出典: ODEPA, 2024

表5 リンゴの州別栽培面積 2023/24 年度 単位: ヘクタール

地域	栽培面積(ha)	増減率*	シェア
バルパライソ州	140	-2.7%	0.5%
首都州	58	-30.1%	0.3%
オイギンス州	6,388	-17.4%	22.0%
マウレ州	18,110	-4.2%	62.4%
ニュブレ州	860	-14.3%	3.0%
ビオビオ州	584	-6.3%	2.0%
ラ・アラウカニア州	2,834	-7.4%	9.8%
その他	32		0.1%
合計	29,006	10.2%	100.0%

*増減率は、3年ごとに計測される。上記のデータは入手可能な直近のものである。

出典：農業省農業研究政策局(ODEPA)の2024年のデータに基づく

政策

新たな政策の進展は報告されていない。

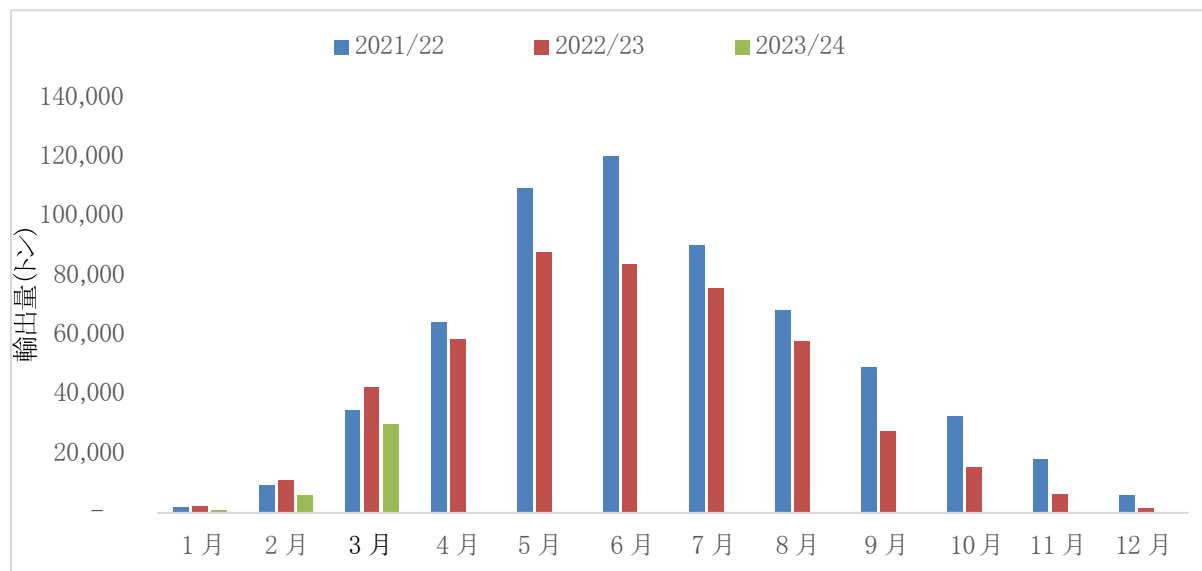
消費

当事務所は、2023/24年度のリンゴの国内消費量(生鮮及び加工用)を、国内生産量の減少に伴い2.6%減の合計41万トンと推定する。この消費量は、商業的なリンゴ生産量の47.7%に相当する。

貿易

当事務所は、2023/24年度のチリのリンゴ輸出量を、生産量の減少に伴い2022/23年度比1.3%減の46万3千トンと推定する。チリの2023/24年度3月までのリンゴ輸出量は、2022/23年度に比べて34.3%減の3万6,545トンであった。しかし、当事務所は、遅れている収穫が進むにつれて、輸出水準はシーズン後半に正常化すると推測する(図4)。

図4 月別リンゴ輸出量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

コロンビアはチリ産リンゴの最大の市場である。チリは2022/23年度に6万4,847トンのリンゴをコロンビアに輸出し、これはチリのリンゴ輸出量の13.8%を占めた(表6)。ブラジル及び米国はチリ産リンゴの第2位及び第3位の輸出先で、チリのリンゴ輸出に占める割合はそれぞれ11.2%及び9.9%であった。

表6 チリのリンゴ輸出量(トン)

チリから世界への輸出量						
品目:080810, リンゴ(生鮮)						
輸出先国	販売年度			1月から3月まで		
	2021/22	2022/23	変動率	2023年	2024年	変動率
世界	602,581	469,304	-22.1%	55,590	36,545	-34.3%
コロンビア	85,899	64,847	-24.5%	16,671	12,545	-24.7%
ブラジル	65,193	52,724	-19.1%	3,758	2,760	-26.6%
米国	52,669	46,360	-12.0%	1,415	171	-87.9%
エクアドル	47,169	38,357	-18.7%	8,267	6,671	-19.3%
ペルー	39,013	37,207	-4.6%	4,162	2,896	-30.4%
台湾	29,432	23,567	-19.9%	0	0	
サウジアラビア	23,848	21,256	-10.9%	4,053	3237	-20.1%
オランダ	33,819	19,171	-43.3%	1778	870	-51.1%
インド	35,003	16,483	-52.9%	520	703	35.2%
ドイツ	19,903	14,197	-28.7%	635	59	-90.7%
ポリビア	15,992	12,366	-22.7%	2,305	1,492	-35.3%
フランス	12,693	11,970	-5.7%	48	0	-100.0%
カナダ	10,015	10,906	8.9%	581	34	-94.1%
グアテマラ	16,427	10,727	-34.7%	1,637	1071	-34.6%
英国	18,770	9,580	-49.0%	242	105	-56.6%
その他	96,736	79,586	-17.7%	9,518	3,931	-58.7%

出典: Trade Data Monitor, LLC

<ナシ>

表7 チリのナシの生産需給統計

ナシ(生鮮) 販売年度の始まり チリ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2022年1月		2023年1月		2024年1月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	6,165	6,165	5,878	5,878	5,750	5,791
収穫面積(ヘクタール)	6,000	6,000	5,800	5,800	5,700	5,700
結果樹本数(千本)	6,200	6,200	5,950	5,950	5,800	5,800
未結果樹本数(千本)	900	900	1,000	1,000	1,000	1,000
果樹本数合計(千本)	7,100	7,100	6,950	6,950	6,800	6,800
商業的生産量(トン)	220,659	220,659	210,000	210,000	200,000	200,000
非商業的生産量(トン)	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
生産量合計(トン)	222,659	222,659	212,000	212,000	202,000	202,000
輸入量(トン)	900	900	800	700	700	700
総供給量(トン)	223,559	223,559	212,800	212,700	202,700	202,700
国内消費量(トン)	107,859	107,859	102,800	107,787	97,700	102,700
輸出量(トン)	115,700	115,700	110,000	104,913	105,000	100,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	223,559	223,559	212,800	212,700	202,700	202,700

公式データは [PSD Online Advanced Query](#) から検索できる。

出典: 当事務所推計